

発展演習 ① ② 出題校・出典一覧 (設問は、一部改作あり)

- 第1日 過去・完了の助動詞…… ① 獨協大 『続古事談』
 ② 白百合女子大 『木幡の時雨』
- 第2日 推量の助動詞(1)…… ① 立教大 『撰集抄』
 ② 京都教育大 『伊勢物語』
- 第3日 推量の助動詞(2)…… ① 法政大 『雨月物語』
 ② 滋賀大 『義経記』
- 第4日 推量の助動詞(3)…… ① 中央大 『竹取物語』
 ② 京都府立大 『沙石集』
- 第5日 打消・打消推量の助動詞 ① 琉球大 『大和物語』
 ② 県立広島大 『住吉物語』
- 第6日 断定・願望・比況の助動詞 ① 早稲田大 『増鏡』
 ② 学習院女子大 『菅笠日記』
- 第7日 受身・使役の助動詞…… ① 防衛大 学校 『常山紀談』
 ② 佛教大 『春雨物語』

- 第8日 格助詞…… ① 神戸学院大 『折りたく柴の記』
 ② 立教大 『ささやき竹』
- 第9日 接続助詞(1)…… ① 静岡大 『三野日記』
 ② 熊本県立大 『歎異抄』
- 第10日 接続助詞(2)…… ① 立教大 『伽婢子』
 ② 獨協大 『宇治拾遺物語』
- 第11日 副助詞…… ① 立教大 『宇津保物語』
 ② 神戸学院大 『発心集』
- 第12日 係助詞と係り結びの法則 ① 福岡大 『徒然草』
 ② 獨協大 『宇治拾遺物語』
- 第13日 注意すべき係り結び…… ① 成蹊大 『栄花物語』
 ② 鹿児島大 『月のゆくへ』
- 第14日 終助詞・間投助詞…… ① 防衛大 学校 『弁内侍日記』
 ② 福岡教育大 『源氏物語』

解答

基礎演習

- ① Ⅱ過去・已然形
- ② Ⅱ過去・連体形
- ③ Ⅱ完了・命令形
- ④ Ⅱ強意・終止形
- ⑤ Ⅱ完了・已然形
- ⑥ Ⅱ存続・連体形
- ⑦ Ⅱ完了・未然形

発展演習

- 1 アⅡる イⅡれ ウⅡれ エⅡら オⅡる
- 2 ア・オ

解説

基礎演習

最初に助動詞全般について、一言言っておきたい。

本書の問題にあたる前に、助動詞の基本、すなわち個々の助動詞の接続・活用・文法的意味と口語訳の仕方などが、おおむね理解できているかどうかを点検してみてほしい。手っ取り早くは、本冊の「付録3 助動詞活用表」の表が、だいたい頭に入っているかどうかということである。

自信のない者は、先にそれを仕上げてからにしないと、本書の問題を解いていく上で能率が悪く、うまく進まないということになりかねない。

ことに本書の「発展演習」は、すべて最近の入試問題である。スポーツに例えれば、公式戦というわけだ。基礎トレーニングがいい加減なままで、いきなり公式戦に臨むのは無謀というものだろう。

*

では、本題に入る。

ウは、前の「いひ」が動詞の連用形で、さらに係助詞「こそ」のあることから、過去の助動詞「き」の已然形の一部。

エは、前で切れないので、「にくし」で「語の形容詞。

オは、前の「聞き」が動詞の連用形なので、過去の助動詞「き」の連体形。

以上から、答えは明らか。

口語訳

基礎演習

- (1) 僧坊のそばに大きな榎の木があったので…
- (2) まったく思いがけなかったことである。
- (3) 早く船出して、この浦を去りなさい。
- (4) 潮も満ちた。風もきつと吹くに違いない。
- (5) 道ばたにある清水の流れているこの柳の木陰で、ほんのしばらく休もうと思っ立ち止まったことだ。
- (6) このあたりで見知っている僧である。
- (7) 燕が巣を作ったならば、知らせよ。

発展演習

1 大齋院と申し上げる方は、村上天皇の御息女である。その時、小野宮右大臣（実資）は大納言で、祭の上卿として、齋院に参上して客殿に入ろうとなさったが、「申し上げたいことがあります。まずはこちらへ」とおっしゃったので、（大齋院の）御前に参上なさったところ、御簾の中に敷物を敷いて、女房が伝えておっしゃったことには、「中宮（彰子）様からいろいろの扇を下さいました。お使いは少将雅通です。女房が引き止めましたが、（褒美を受け取らず）振り払って逃げてしまいました。悔しいことです。どうしたらよいでしょうか。このことを相談しようとお呼びしたのです」とおっしゃったので、大将（実資）が申し上げ

古典では、「時」の助動詞は重要だ。①「けれ」・②「し」は過去の助動詞なので、反射的に活用形まで答えられるようでありたい。

③「ね」・④「ぬ」は同じ助動詞だが、④の方は後に「べし」があるので、意味を「完了」にしてはいけない（本冊4ページ上段参照）。

⑤「つれ」の活用形は已然形だが、もちろん「こそ」の結びだから。

⑥「る」の意味を、自発・可能・受身・尊敬などとしなないこと。「見知らる」でないことに注意。

⑦「たら」は存続・完了どちらにもとれそうだが、より自然に口語訳できる方に決める。

発展演習

1 語の接続に関する基本問題。

助動詞の接続は重要だと言われるが、主な助動詞についても相応の知識がないと、この種の問いに対応できない。

アには、後が接続助詞「を」なので、「けり」の連体形の一部が入る。

イには、後が接続助詞「ば」なので、「けり」の已然形の一部が入る。（話の流れから、未然形の仮定条件はあり得ない。）

ウには、後が接続助詞「ども」なので、「つ」の已然形の一部が入る。

エには、後が推量の助動詞「ん」なので、「たり」の未然形の一部が入る。

オには、前に係助詞「なむ」があるので、文末だが「けり」の連体形の一部が入る。「係り結び」は、ダイレクトに問われることはあまりないが、このように隠し味的な問いは多いので注意する。

2 「し」の識別問題。

アは、前の「思ひ」が動詞の連用形なので、過去の助動詞「き」の連体形。

イは、前の「らうたう」が形容詞の連用形（ウ音便）でも本活用の方なので、サ変動詞の連用形。

なさったことには、「明日、列見辻に参列した時、今日のご褒美をお与えになるのがよいでしょう。中宮からの檜扇を取り出して、お見せになった。女房が（扇を）取り次ぐのに、御簾に顔を隠して、身体は隠さずに出して手渡した。その振る舞いは由緒ありげで、優雅に見えた。

2 按察使の上がお聞きになって、「やはり、初めから思っていたとおりのことですよ。（中の君の方が）ずっと大人でいらっしゃるのに、それを差し置いて（三の君を結婚させた）母上のお心がひねくれていること」とおっしゃって、「大空を踏んで鳴り響かせる雷も（思い合う二人の仲を裂くことはできない）と言いますよ」と分別ありげにおっしゃると、母上は、「あなた方はご存じないでしょう。故殿が（中の君を）まるで后のように大切に育てになったのに、早くに先立たれ申し上げてしまったので、運のない人だとわかりました。また、故殿がとりわけ可愛がりになったのも、この（中の君の）御乳母の少納言を若い時から愛しなさいたからなのです。（その娘の）少将をも殿の御子だと人は噂してました。そのせいでしょうか、普通の女房とは違って、目許や口許が上品なのも、殿の御子たちによく似ていて、感じのよい様子をしています。その後、殿も亡くなりなさいました。少納言も今はいません。縁者が憎らしいというわけではありませんが、不愉快だと思っ

ていた人に縁があるからでしょうか、よくあってほしいとは思わないのです」とおっしゃるので、…（中略）…

それから、（母上は）三の君にも、「心得ておきなさい。中納言が常に恋慕っていらっしゃる人は、中の君だったのですよ。もし、（中納言が）お尋ねになることがあったら、『どこへいらっしゃったのでしょ。田舎の方へと聞きました』とおっしゃい」と言い含めなされた。